

さくら川

第五二号 平成十七年一月一日

熱日高彦神社社務所

電話 〇二二四・六二一・〇二四一

<http://hitaka.org> atuhitaka@hitaka.org

終戦の日から六十年 還暦です

宮司 黒須主計

明けましておめでとうございます。

六十年前の昭和二十年も乙酉(とりどし)でした。

八月十五日は暑い日で、お昼の玉音放送で大東亜戦争にわが国が敗れたことを知り、腰の抜けた思いでした。その後は夢にも思わなかった、連合国の支配下に置かれましたが、二十七年に講和条約が発効、日本はやつと独立しました。しかし同時に結ばれた安全保障条約により、結局アメリカの傘の下で、かりそめの平和を六十年も味わってきたのです。

六十年は還暦で、人ならば一生の仕事を仕上げる歳。でも日本は今、自分をひとに守ってもらい、常に隣国からは戦争責任追及、拉致や領土・領海侵犯を受けて、おどおどと暮らす。どう見ても、若者に「日本人の誇りを持ちなさい。」などと言える姿はありません。

これが戦後完成した還暦日本の姿か。とんでもない、これからです。独立の年から数えるとまだ七年あります。残された七年で日本らしい日本をどう完成させ得るか、再生日本の完成に向けて、今年はその元年であります。

私たちは、当地に誇りを持って生活しています。当神社の諸行事は、傍目からも頼もしく見えるそうです。このように、身を以て文化を伝える活動を進め、さらに国政にも関心を持ち、誇れる日本国を造りたいものです。

正月祭典のご案内

歳旦祭（さいたんさい）

日時 元旦午前0時より30分ほど 場所 本殿

おだやかで稔り多い歳になりますよう、皆でお祈りいたしましょう。

どなたでもご参列いただけます。暖かい服装でご参集ください。

参列いただいた方（ご家族）には、お札をお渡しいたします。

祭典に続き新年のご祈禱をいたします。ご希望の方は事前にお申し込みください。



お日待ち（神棚祭）

正月中、神主が氏子中を訪問し、神棚祭をご奉仕いたします。

ご家族そろってご参列下さい。

厄祓（やくばらい）などのご祈願もあわせて申し受けます。

斎火祭（とんど祭） 奉納和紙とうろう

日時 正月14日（金） 夕刻～午後8時半

場所 本殿前境内ひろば

正月飾りや古いお札などをお持ちください。とんどの火にあたると一年無病息災といわれます。温かふるまいも待ってます。

また、和紙とうろうの奉納を申し受けます。各区の総代さんにお申し込みください。

〈お願い〉燃やすことにより有害ガスが発生すると思われるものは、外すか、分別してお持ちください。



厄年・年祝いのお話し

人がある年齢に達すると、これを「厄年」といって厄祓いする風習があります。厄年はもともと陰陽道から出た説で、確率論だとも言われ、およそ人生の転機が訪れる年齢とされます。

一方で厄年は「歳祝い」と称してお祝いともされます。神仏のお世話役をおおせつかるどころさえあります。おおよそ人生の中で大切な年周りとということでしょう。

当地では、年の初めに厄祓いのご祈禱をうけ、そのときに肩にかけた赤い半襟を後日神社に結んでくる慣わしがあります。お祝いの「赤」に体の「垢」をかけ、厄難を神様に預けてしまう意味もあるようです。

男性 二五歳（五六年生まれ）

四二歳（三九年生まれ）

六二歳（一九年生まれ）

女性 一九歳（六二年生まれ）

三三才（四八年生まれ）

※前後三年を前厄・本厄・後厄として慎む



伊勢の神宮

いせ じんぐう
しきねんせんぐう

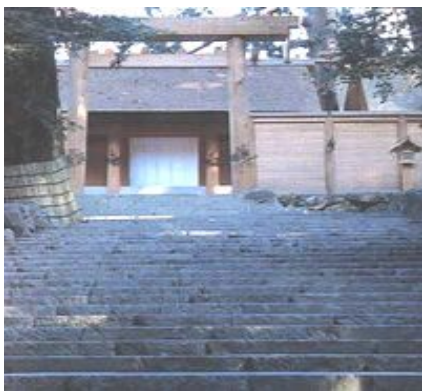
第六十二回式年遷宮はじまる

伊勢の神宮は日本人の心のふるさと

伊勢の神宮は、日本の国をお守りくださる私たちの総氏神さまです。皇室の御祖先である天照大御神（あまてらすおおみかみ）をお祀りする皇大神宮（内宮）と、衣食住の神さまである豊受大神神（とようけおおみかみ）をお祀りする豊受大神宮（外宮）を中心に、一二五の宮社からなります。

式年遷宮はわが国最大のお祭

二十年に一度の大祭、神宮式年遷宮は、正殿（しやうでん）を始め御垣内（みかきうち）のお建物全てを新造し、さらに殿内の御装束（おしやうぞく）や神宝を新調して、神儀（御神体）を新宮へお遷し申し上げるお祭りです。天武天皇の御代に制度化され、最初の式年遷宮は、持統天皇四年（六九〇）に行われました。以来千三百年に亘って続けられております。



掘立柱（ほったてばしら）に萱（かや）の屋根が特徴の神宮の建築様式は、唯一神明造（ゆいしんめいづくり）と呼ばれ、弥生時代にまで遡る高床式（たけどしき）です。

穀倉の姿を今に伝えていきます。完成するまでには、ほぼ十年の歳月を要しますが、その間、御料木を伐り始めるに際してのお祭りを始め御造営の安全をお祈りするお祭りなど数多く行われます。

平行して、御装束神宝も古例に従って調製されます。御装束とは正殿の内外を奉飾する御料の総称、神宝とは調度の品々をいいます。優れた工芸技術を守り伝えるという重要な意味もありますが、式年遷宮に欠くことのできない大事業です。

内宮、外宮両正宮と一四の別宮で遷宮の大祭は行われます。皇室の大祭でありますと同時に、神宮永遠性を実現する大いなる営みでもあるのです。

平成十七年に行われる神事

山口祭（やまぐちさい）

遷宮のご用材を伐る御杣山（みそまやま）の山口に坐す神を祭り、伐採と搬出の安全を祈ります。

木本祭（このもとさい）

ご正殿の御床下（おんゆかした）に奉建する心の御柱のご用材を伐採するにあたり、その木の本に坐す神を祭ります。山口祭の夜に行われます。

御杣始祭（みそまはじめさい）

ご用材を御杣山で正式に伐りはじめるお祭りです。

御樋代木奉曳式（みひしろぎほうえいしき）

ご神体をお納めする「御樋代」のご用材を伊勢へ運ぶ儀式です。

御船代祭（みふなしろさい）

御樋代をお納めする「御船代」のご用材を伐採するお祭りです。

年中行事を楽しもう

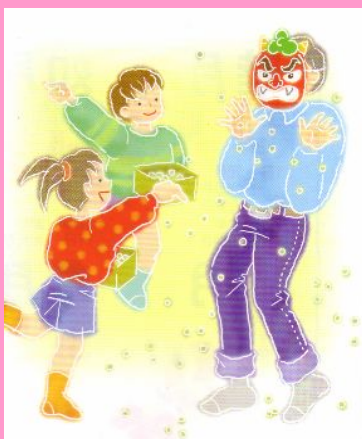
節分（せつぶん）

節分には災厄を祓うため、「福は内、鬼は外」のかけ声のもと豆まきをし、鯛の頭を刺したヒイラギの枝や豆ガラを門口に立てます。

節分は、立春、立夏、立秋、立冬の節目を指し、年四回ありますが、旧暦では立春の日を立春正月と呼んで、一年の始まりと考えたことから、その前日の「節分」に豆まき行事が行われるようになりました。

豆は鬼をやっつけるもの？でも神棚や氏神、当神社の近隣では神社の方角に「お日高さまにあげます」といつてまく、お供え物でもあります。正しくは霊力のあるものとしてとらえるべきでしょう。ですから数え年の分の豆を食べると、一年無病息災で過ごせるのです。

今年の節分は二月三日です。ご家族そろって豆まきをして、良い春をお迎えください。でも、食べる豆の数は年齢相応に・・・。



お日高さんの自然 ⑫

ツバキ(ヤブツバキ)

ツバキ科 ツバキ属

ツバキは花の少ない季節に咲くことから、日本人のツバキによせる思いは深い。

地球温暖化の影響が最近では十二月頃にも花が見られるようになった。

ツバキは日本の花である。学名もカメラリアジャポニカ。野生種としては、本州以南の暖地に広く白生するヤブツバキと、日本海側の多雪地帯にその分布が限られる変種のユキツバキがある。角田市の花木はヤブツバキである。

ツバキははるか上代から人々に身近な花であった。「古事記」や「日本書紀」にもその名は見える。長寿で四季を通じて葉が青々と茂り、しかも花の少ない時季に見事な赤い花を咲かせるツバキを、人々は繁栄の象徴と神聖視し、呪術的な魔力の存在を信じた。ツバキを神木とする神社も各地にあり、ツバキにまつわる伝説もまた多い。

ツバキの材は緻密で堅く、木槌のほか木魚や楽器などにも使われた。小生はヤマイモ掘りの道具(ずつくす)の柄にしている。また、種子からは高価な椿油が採れ、油粕も粉末にしてシャンプー代わりに用いられ



た。茎葉を燃やして得られる灰は、貴重な紫色を染めるのに欠かせない媒染剤でもあった。

美しい花を眺めるためにも、昔から庭に植えられ、室町時代にはすでに園芸品種が記されており、江戸時代に至って数多くの品種が作り出された。ただし、ツバキが盛んに栽培されていたのはもっぱら商家の庭

だったらしい。ぼろりと抜け落ちるツバキの花を、武家は「花の《首》が落ちる」として忌み嫌ったからである。

ツバキがヨーロッパに紹介されたのは十八世紀。常緑樹(注1)の少ないヨーロッパで、つややかな緑葉と情熱的な赤い花は人々に驚きと称賛をもたらした。特に、フランスではコサージュが夜会に赴く貴婦人のドレスを飾ったという。ベルディ作曲の「椿姫」が熱狂的な大成功を納めたのもこの頃である。

ツバキの名は、春に咲く木ということから「椿」の国字が当てられているが、「艶葉木」あるいは「厚葉木」に由来するとも言われる。

葉の光沢は、表面に「クチクラ」と呼ぶ一種のワックス層があるため。英語読みすると「キューテクル」でシヤンプーやリンスでおなじみである。仲間のサザンカやカンツバキの葉もクチクラ層があり、自動車の排気ガ

スや煤煙からも葉をまもれるので、高速道路などの沿道に植えられているのである。

花が咲き始めるとメジロやヒトリが盛んに蜜を吸いに訪れるが、蜜を提供した代わりに受粉のための花粉の運び屋「送粉者」として利用しているのである(注2)。そのために花びらが丈夫でしかも横向きに咲いている。

(注1)一年中緑の葉がついている木。ツバキやカシなど(特に常緑広葉樹という)。

(注2)鳥媒花(鳥が花粉を運ぶ)。

(文/小島和夫氏)

||||| まほろば |||||

「災害に思う水のありがたさ」

宮城県に大地震が起きる可能性が大きいと言う報道があり、折も折、中越地震が起きてひやりとさせられました。あれがここに起きても不思議ではなかった。そんな折に、新潟の震災にかかわって、管工業を営む方から、災害と水のありがたさのお話を伺う機会がありました。

緊急時は 水の備えこそ

現代の震災の特徴として、ライフラインの破断による生活困難、復旧にかかる多くの労力と時間を上げておられました。中でも、仕事柄どうしても水道管や生活水のことには注意がいくそうです。「先ず、備えはどうだったのか気になります。

情報の中に

『風呂水で断水の間をしのいだ』報告がありました。

阪神大震災などの経験から災害時の貯水として風呂水の大切さが指摘されていた。風呂桶程の水があれば配管が復旧

するまでの生活水は何とかなる。『備えあれば憂いなし』と言いますが、今までの教訓が果してどの程度生かされたのか……。心配顔で語られました。

身近な例でも以前に、ある集合住宅のポンプが故障して全棟が断水し、騒ぎになったそうです。復旧までせめてバケツ一杯分の飲料水が各家庭にためてあれば慌てることはなかった、と回顧されました。実際に苦労を経験してこそ備えが身につくでしょうが、そんな苦労をしないために、各家庭で最小限の水は貯えていて欲しいそうです。改めて、「それにしても災害などでの断水時に思い知るのが水の有難さ」と言葉を強めます。

普段 忘れていた水のもったいなさ

「電気やガスも必要ですが、最も生活に欠かせ

宮城県北部地震で崩壊した酒蔵



ないのは水です。普段、水道が完備された私たちの生活はどうでしょう。たとえば水一杯飲むのに、最初の一杯は捨て、次の一杯を飲む間水道は流しっぱなしです。昔は夏場によく断水しました。蛇口からでる一滴の水さえも惜しんで口にしたものです。この仕事をしていて言うのもなんですが、あまり便利になりすぎて、水の大切さ、ありがたさ、もったいないという気持ちが無くなっているのではないでしょうか。その辺が災害をより大きくしている気がするのですが。」

最も水に恵まれた国日本 だから大切に

水資源の豊かさで日本は二四〇数力国中一四番目とか。もともと、水が多すぎては産業は発展せず、その点日本は上水、中水、下水、灌漑用水などいずれも整備され、それゆえ「最も水の豊かな国」といえるのだそうです。これも水を大切にする伝統、文化、技術があつてこそです。

私たちは、水は無尽蔵だと思いがち。しかし世界では今、五人に一人が安全な飲み水を確保できないのだそうです。また、淡水をめぐって国の貧富の差が生じていて、「二十一世紀の戦争は水によって引き起こされるだろう」ともささやかれます。

教訓を生かして 万全に

水は限りある大切な資源です。この機会にあらためて「水の国 日本」に生まれた幸せを思い、日々の水をありがたく大事に使っていききたいものです。

阪神淡路、宮城県北部、それに中越地震被害。

教訓を生かし、備えようではありませんか。

社頭あれこれ

願い叶って新嘗祭

春祭りに「今年こそは」と願った甲斐あり、新嘗祭にめでたく豊作を感謝申し上げることができた。

また祭典後、神前において感謝状授与式が執り行われた。多額の浄財を奉納された小野凱久さん、戸村健男さん(共に三区)、長年総代として尽力された左藤庄一さん(一区)、森秀男さん(二区)に宮司より感謝状が手渡された。



よりお参りしやすい境内に

総代さん 事業を念頭に環境整備奉仕

十一月末の日曜日。恒例の奉仕作業として、社殿裏側の間伐、下刈り整備が行われた。境内整備は今検討されている記念事業の一つに上げられており、



総代みなで思案しながらの作業となった。前後にも有志による整備奉仕があり、車道の南や忠魂碑北側も整然となった。正月にはより清々しいお参りをしていただけるはずである。

桃山の匠 天上の極楽に感嘆

総代研修で国宝大崎八幡宮参拝

十月二十九日に、総代研修として、平成の大修復を終え社殿一般公開中の大崎八幡宮を、氏子の希望者を交えて正式参拝した。四百年の時を経て甦った慶長の技。拝殿の彩色技術、そしてこの先二度と公開されないであろう本殿内陣(ご神体が鎮まる場所)など、たいへん貴重な修復の有様を、驚きをもつて拝見した。当社でも千九百年を機に社殿の腐食箇所修復を検討しており、規模は違うものたいへん参考になった。

なお、来年は氏子の皆さんにも参加いただける研修旅行を企画したいと考えている。



極彩色で彩られた拝殿は、豪壮華麗な桃山文化の集大成といえる。対して、内部彩色は塗りなおさず、剥落止めの処理で、400年の歴史を伝える。

〓ご奉納・ご奉仕〓

一区 斎藤 吉次さん	木炭 野菜
一区 斎藤 公一さん	野菜
一区 黒須嘉次男さん	新穀
三区 三区行政区	木材
三区 佐藤 和由さん	木材
三区 佐藤 善一さん	新穀 野菜
二区 目黒 暢子さん	梨
四区 佐藤 孝一さん	野菜
四区 佐藤武覚夫さん	新穀 野菜
各区 神社総代各位	新嘗祭用神饌野菜等
横須賀市 佐藤光明さん	野菜
小斎 黒須 清光さん	掛け鳥(雉)

(祭典当事者の献饌・幣帛等は割愛させていただきました)

社頭暦

一月 一日	元旦 歳旦祭 初詣
七日	七草
一〇日	成人の日
一四日	斎火祭(とんど祭)
	灯籠
一五日	小正月
二月 一日	如月月次祭
三日	節分祭
一日	建国記念の日
一七日	祈年祭
三月 一日	弥生月次祭
三日	ひな祭
二〇日	春分祖霊祭

編集後記

あけましておめでとうございます。暖冬でツバキが昨年の十一月から咲いていました。おかげで小島先生の文章に添えるよい写真が撮れましたが、温暖化が肌で感じられるようになったとすると穏やかではありませんね▼暖かくなれば直ぐに春祭り。世話人の方々の協力のもと、二月中にはお声を掛け始めたいと計画しております。いろいろなメディアをとおして宣伝もしていきます。新年度の初めを、賑々しくスタートさせていただくよう、よろしく願います▼「さくらみ川」は当社ホームページでもご覧になれます。